

(3) 2013年(平成25年)1月14日(月曜日)

OCHIS 作本貞子副理事長に聞く

健康起因事故

昨年の関越自動車道の高速ツアーバス事故は、その悲惨な状況から全国民を震撼(しんかん)させた。だがバスやトラック、タクシーなど営業車両の交通事故はこれだけにとどまらず、各業界では安全・安心を根底から崩している。事故の要因は過労や漫然運転などもあるが、近年では健康起因の事故が増加の一途となっている。その現状や対策についてNPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS)の作本貞子副理事長に聞いた。

《ドライバーの健康起因による交通事故が増えている》
《ドライバーの体調不良や悪影響を及ぼすということ》

病気が、多くの人を巻き添えにする悲惨な交通事故を引き起こし、社会に多大な影響を及ぼすということ



は、昨年の関越自動車道での居眠り運転事故をはじめ多くの事故が語られています。今後も高齢ドライバーの増加とともに、その危険性が一層高まっていくと予想されます。

現在、国土交通省は対策の一環として「健康管理マニュアル」を策出し、健康管理の重要性と、その指針を示していますが、90%以上を占める中小事業者の多くは、マニュアルが出たことを知らず、たまたま欠な取り組みと捉えているのが次の3項目で、私たちが

《具体的などのような対策に取り組みたいのか》
《このような現状の中で、私たちが最優先で不可

このように現状の中で、私たちが最優先で不可

運転者高齢化で増加傾向 防止対策に「支援」の活用を

防止対策に「支援」の活用を

は、その取り組みに実践的なサポートを行い、運輸業界の安全と健康支援を行っています。定期健康診断の有効活用です。健康の事後フォローにより、健康起

果の報告を必ず受けること。その上で、社員自身が現状の就労状況に過剰な状態に大きなギャップがある健康状態かどうかをチェックしていただき、結果によっては職種変更などの措置を講じる必要があります。無料の「健診の活かし方勉強会」と「個別相談会」を実施し、管理者の悩みを解消し、安心して働ける職場づくりを支援しています。

因事故の多くは未然に防ぐことができません。したがって、社内での未受診者がいる場合は必ず受診を指導し、全員の受診を目指していただきます。また健診結果に基づいて再検査、精密検査などの受診を指導し、その結果

ただ、受診からフォロー強化と「個別相談会」を、一連の過程は、実際は、かなりハードルが高く、ポートしています。2つ目は睡眠時無呼吸症候群(SAS)スクリーニング検査の実施です。居眠り運転の根本的な要因を探るための検査は、すでに多くの事業者が実施しています。3つ目は社員教育。定期的な安全・健康教育は企業にとって不可欠ですが、社内教育の限界や難しさに直面している管理者は多いようです。これも私たちが、管理者が容易に活用できる支援ツールとして、「事故防止と健康管理ポスター」「睡眠ガイドブック」「SAS早わかりガイド」などを提供するほか、情報提供としてメールマガジン(月1回)を送信し、さらに講

師の現場派遣によるバックアップで社内教育を支援しています。

《様々な情報やツールの活用が事故防止策に有効なことです。》